

**2020年度第1四半期決算**  
カンファレンスコール

2020年8月6日（木）

株式会社 **ツムラ**

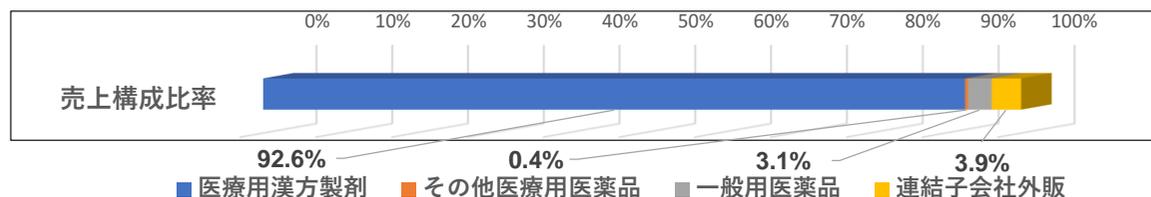
取締役常務執行役員CFO

半田 宗樹

# 2020年度 第1四半期 決算の概要

(百万円)

	2020年度 1Q実績	2019年度 1Q実績	前年同期比		2020年度 上期計画
			金額	伸長率	
売上高	31,768	30,699	1,068	3.5%	64,200
営業利益 (営業利益率)	5,732 (18.0%)	5,230 (17.0%)	502	9.6%	9,100
経常利益	5,750	5,401	348	6.5%	9,400
親会社株主に帰属する 四半期純利益	4,045	3,903	141	3.6%	6,800



©2020 TSUMURA & CO.

2

## ■ 2020年度 第1四半期 決算の概要

2 ページは、2020年度 第1四半期 決算の概要です。

売上高は、前年同期と比べ、3.5%増の317億6千8百万円となりました。上期計画に対する進捗は、49.5%です。

営業利益は、前年同期と比べ、9.6%増の57億3千2百万円となりました。上期計画進捗率は、63.0%と高めですが、COVID-19拡大による活動自粛により、経費の未消化が主な要因です。

経常利益は、前年同期と比べ、6.5%増の57億5千万円となりました。

四半期純利益は、前年同期と比べ、3.6%増の40億4千5百万円となりました。

# 決算ポイント ～ 前年同期比：増収増益の1Q決算

(百万円)

**売上高** **31,768** 百万円 **前年同期比** **+3.5%**

- 中国子会社の新規連結により、前年同期比で3.5%伸長
- 医療用漢方製剤129処方 of 売上高は、前年同期比で0.2%減少
- OTC医薬品の売上高は、前年同期比で37.4%伸長

**営業利益** **5,732** 百万円 **前年同期比** **+9.6%**

**営業利益率** **18.0%** **前年同期比** **+1.0pt**

- 売上原価率は、薬価改定による上昇分を生薬関連コストで吸収したものの、子会社外部販売の増加影響により**42.1%**(前年同期比+1.6pt)
- 販管費率は、COVID-19拡大による活動自粛に伴う経費未消化等により**39.9%**(前年同期比△2.6pt)

**経常利益** **5,750** 百万円 **前年同期比** **+6.5%**

親会社株主に帰属する  
**四半期純利益** **4,045** 百万円 **前年同期比** **+3.6%**

©2020 TSUMURA & CO.

3

## ■決算のポイント

3ページは、決算のポイントです。

売上高は、前年同期比で3.5%伸長しました。これは中国子会社の新規連結によるものです。

医療用漢方製剤129処方 of 売上高は、前年同期と比べ0.2%減少しましたが、一般用漢方などのヘルスケア国内販売は好調で、前年同期と比べ37.4%伸長しました。

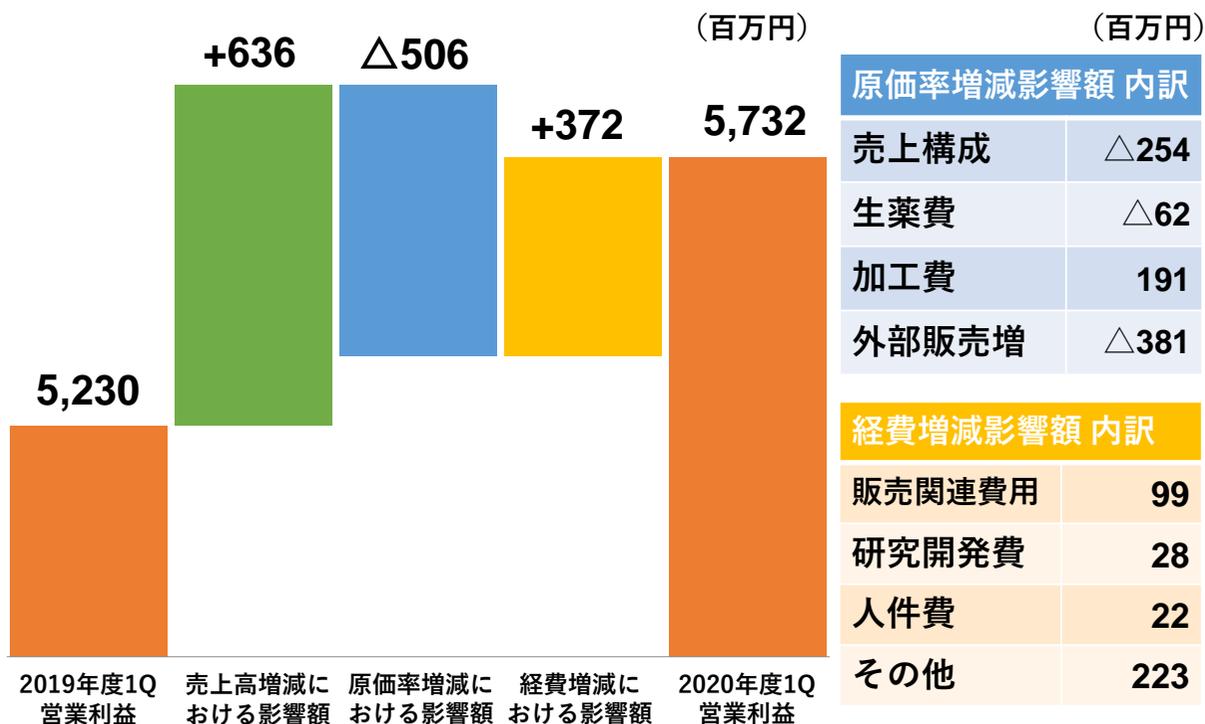
売上原価率は、42.1%となりました。

前年同期と比べ、薬価改定による上昇分を、生薬関連コストで吸収したものの、子会社の外部販売の増加影響により1.6pt悪化しました。

販管費率は、39.9%となりました。

前年同期と比べ、COVID-19拡大による活動自粛に伴う経費の未消化等により2.6pt減少しました。

# 営業利益の増減要因(前年同期比較)



©2020 TSUMURA & CO.

4

## ■営業利益の増減要因(前年同期比較)

4ページは、営業利益の増減要因です。

売上高が、前年同期と比べ、10億6千8百万円増加しており、営業利益に与える影響額は、6億3千6百万円となりました。

原価率の増減における影響額は、△5億6百万円となりました。

内訳の主なものとして、営業利益のプラス要因では、生薬関連コストで1億2千9百万円、営業利益のマイナス要因としては、外部販売の増加で3億8千1百万円と薬価改定等に伴う売上構成で2億5千4百万円となりました。

販管費については、先ほどお伝えしましたとおり、COVID-19拡大による活動自粛に伴う経費の未消化等により3億7千2百万円が営業利益のプラスとなりました。

以上の結果、当四半期末における営業利益は、57億3千2百万円となりました。

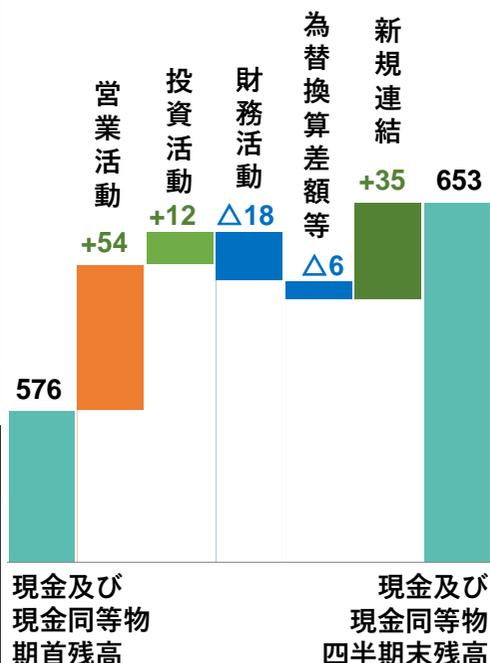
# 財政状態およびキャッシュ・フロー

(百万円)

(億円)

	2019年度 (2020.3)	2020年度 1 Q	増減額
資産合計	311,042	<b>312,668</b>	1,625
流動資産	194,288	<b>201,075</b>	6,786
固定資産	116,753	<b>111,592</b>	△5,160
負債合計	97,993	<b>100,268</b>	2,275
流動負債	48,476	<b>50,953</b>	2,477
固定負債	49,516	<b>49,314</b>	△202
純資産合計	213,048	<b>212,399</b>	△649
自己資本比率	66.0%	<b>65.7%</b>	△0.3pt

	2019年度 (2020.3)	2020年度 1 Q	増減額
たな卸資産計	73,310	<b>75,163</b>	1,852
商品及び製品	10,338	<b>10,456</b>	118
仕掛品	12,418	<b>14,204</b>	1,785
原材料及び貯蔵品	50,553	<b>50,502</b>	△50



©2020 TSUMURA & CO.

5

## ■ 財務状態

5ページは、財務状態およびキャッシュ・フローについてです。

当四半期末の資産合計は、3,126億6千8百万円で、前年度末と比べて16億2千5百万円増加しました。

流動資産は、受取手形及び売掛金が減少した一方で、現金及び預金の増加等により、前年度末と比べて67億8千6百万円の増加となりました。

固定資産は、建物及び構築物が増加した一方で、当期より津村盛実製薬有限公司を新規連結したこと等に伴う投資その他の資産の減少等により、前年度末と比べて51億6千万円の減少となりました。

負債合計は、1,002億6千8百万円で、前年度末と比べて22億7千5百万円増加しました。

流動負債は、支払手形及び買掛金が減少した一方で、流動負債におけるその他の増加等により、前年度末と比べて24億7千7百万円の増加となりました。

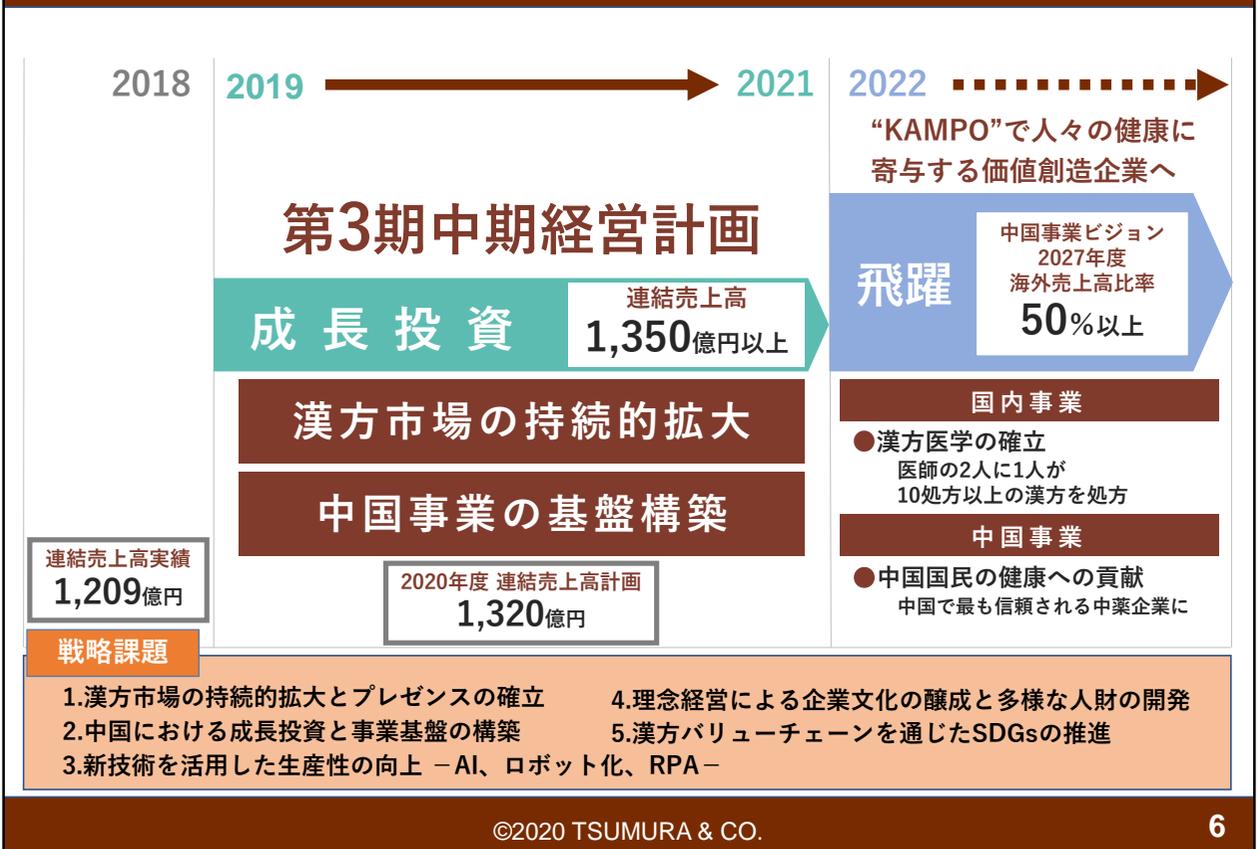
固定負債は、前年度末と比べて2億2百万円の減少となりました。

純資産合計は、2,123億9千9百万円で、前年度末と比べて6億4千9百万円減少しました。

以上の結果、自己資本比率は0.3ポイント低下して、65.7%となりました。

キャッシュ・フローにつきましては、ご覧の通りです。

# 長期経営ビジョン実現へのロードマップ



## ■長期経営ビジョン実現へのロードマップ

6ページは、長期経営ビジョン実現へのロードマップです。

第3期中期経営計画は、成長投資のステージと位置づけ、

国内漢方市場の持続的拡大と中国事業の基盤構築を行い、

連結売上高は1,350億円以上を目指しております。

# 育薬処方・Growing処方 売上高

(百万円)

	売上順位	製品No./処方名	2019年度1Q	2020年度1Q	前年同期比	
育薬処方	1	100 大建中湯	2,662	2,664	2	0.1%
	2	54 抑肝散	1,995	1,987	△8	△0.4%
	3	43 六君子湯	1,872	1,860	△12	△0.7%
	9	107 牛車腎気丸	936	916	△19	△2.1%
	22	14 半夏瀉心湯	364	350	△14	△3.9%
育薬処方合計			7,831	7,779	△52	△0.7%
Growing処方	4	41 補中益気湯	1,761	1,972	211	12.0%
	5	68 芍薬甘草湯	1,340	1,263	△76	△5.7%
	6	29 麦門冬湯	1,188	906	△281	△23.7%
	7	24 加味逍遙散	1,165	1,164	△0	△0.1%
	8	17 五苓散	1,118	1,152	34	3.1%
Growing処方合計			6,574	6,461	△113	△1.7%
育薬・Growing処方以外の119処方合計			15,073	15,168	94	0.6%
医療用漢方製剤 129処方合計			29,480	29,408	△71	△0.2%

©2020 TSUMURA & CO.

7

## ■医療用漢方製剤（育薬処方・Growing処方）売上高

7ページは、医療用漢方製剤の売上高です。

医療用漢方製剤129処方合計の売上高は、294億8百万円、前年同期比7千1百万円の減少、0.2%の減少となっております。

育薬処方の売上高は、77億7千9百万円と0.7%の減少、Growing処方の売上高は、64億6千1百万円と1.7%減少しました。

育薬処方・Growing処方以外の119処方の合計は、151億6千百万円と0.6%増加しました。

# COVID-19による影響

## ■2020年度マンスリー売上高 前年同月比（出荷）



## ■2020年度1Q販路別売上高 前年同期比（実売）



## ■特別寄稿「COVID-19に対する漢方治療の考え方\*」掲載処方売上高 前年同期比（出荷）

	前年同期比		
	2019-1Q	2020-1Q	前年同期比
葛根湯	754	879	+16.5%
補中益気湯	1,761	1,972	+12.0%

\* 出典：日本感染症学会

©2020 TSUMURA & CO.

8

## ■COVID-19による影響

8ページは、COVID-19による影響です。

折れ線グラフは、マンスリーとして公表しております、出荷ベースのツムラ単体の売上高前年同期比です。

単月で、4月が110.0%、5月が86.6%、6月が101.5%と推移し、1Q累計で100.6%となりました。

4月は、COVID-19感染症患者の症状改善に期待できる漢方処方が伸長したこと、およびCOVID-19対策として、長期処方が増加したことなどによるものでした。

5月は、4月の長期処方による反動、COVID-19による受診抑制、および医療機関からのMRへの訪問制限の影響により、大きくマイナスとなりました。

6月は、東京、名古屋、大阪、福岡など都心部を除き、出荷は徐々に回復してきました。

棒グラフは、実売の1Q販路別、前年同期比の伸長率です。

HPでは、情報提供活動が出来なかったにもかかわらず97.3%と健闘いたしました。これは、2019年度下期の大建中湯のHPへの情報提供活動の強化など、日頃の絶え間ない情報提供活動の結果であると考えております。

GPでは、都心部以外では、医療関係者からの要望による訪問が増加したことで、101.3%となり、売上が徐々に回復してきております。

また、特別寄稿「COVID-19に対する漢方治療の考え方」に記載された処方においては、出荷ベースで前年同期比売上が伸長している処方もあります。

具体的には、葛根湯、補中益気湯などが伸長しております。

# Kampo Mega Web講演会

【ターゲット】主に10処方未満の処方医師・全く処方していない医師

2019年度	テーマ	主な処方名	講演者	開催日	視聴者数
	臨床医に漢方はMUSTです	芍薬甘草湯 補中益気湯	新見 正則 先生 帝京大学医学部	2019. 9.25	17,878名
	漢方エキス剤を使いこなす	麻黄附子細辛湯 葛根湯	新見 正則 先生 帝京大学医学部	2019.12.16	18,855名
	急性気道感染症と漢方薬	麻黄湯 麦門冬湯	鍋島 茂樹 先生 福岡大学医学部	2020. 3.23	17,354名
2020年度					
	漢方を分かりやすく理解するかせ、めまい、ストレスを中心に	麻黄附子細辛湯 苓桂朮甘湯	千福 貞博 先生 センブクCL	2020.4.23	23,917名
	急性発熱性疾患への漢方対応とその応用 今、感冒をどう診るか	麻黄湯 柴胡桂枝乾姜湯	高山 真 先生 東北大学	2020.6.8	19,639名
	外部環境の変化（夏季・ストレス）に対応する漢方薬	清暑益気湯 補中益気湯	大野 修嗣 先生 大野クリニック	2020.6.25	20,306名
	ガイドラインから読み解く漢方治療のエビデンス～機能性消化管疾患を中心に	六君子湯 大建中湯	眞部 紀明 先生 川崎医科大学	2020.7.2	20,729名
	漢方レッスン 熱中症・夏バテ	五苓散 清暑益気湯 補中益気湯	大野 修嗣 先生 大野クリニック	2020.7.3～9.30 オンデマンド配信中	—

©2020 TSUMURA & CO.

9

## ■Kampo Mega Web 講演会

9ページは、4月以降の情報提供活動のひとつであるKampo Mega Web 講演会についてです。

Kampo Mega Web講演会は、漢方を処方している数が10処方未満の医師、あるいは漢方を処方していない医師を主なターゲットとして実施しております。

昨年度、3件のKampo Mega Web 講演会を実施しましたが、今年度第1四半期では3件、7月に2件実施しております。

昨年度と同様に、ご好評をいただき、多くの医師の方にご視聴いただいております。

# エリア企画セミナーとエリアWeb講演会

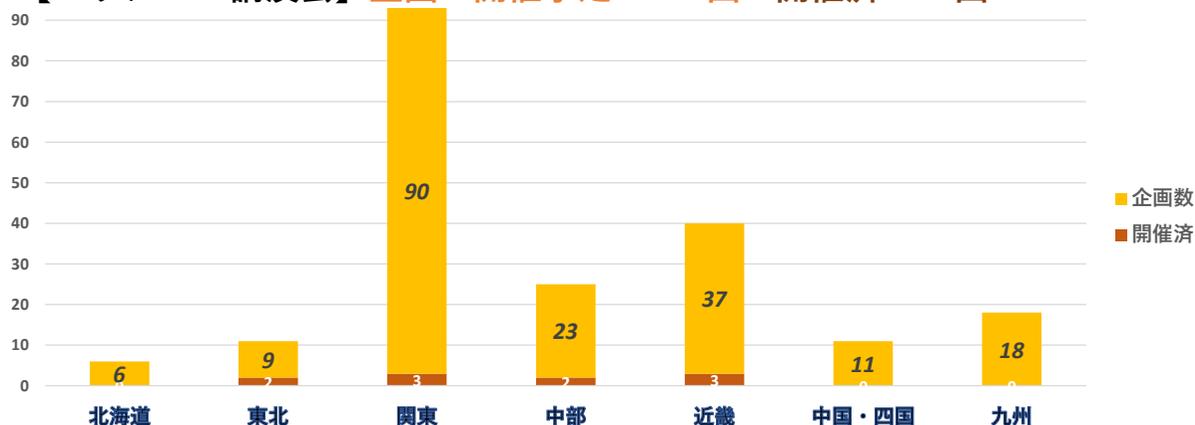
【エリア企画】地位特性・施設特徴を考慮した、きめ細かい情報提供

漢方を学びたい医師向け「卒後漢方医学入門セミナー」

□開催事例：支店管轄営業所では、地域に密着した講師による動画配信

漢方講義全8回シリーズ（1回目⇒274名、2回目⇒330名）

【エリアWeb講演会】企画・開催予定：194回 開催済：10回



©2020 TSUMURA & CO.

10

## ■エリアWeb講演会企画状況

10ページは、エリアWeb講演会の企画状況です。

エリア活動では、地域特性・施設の特徴を考慮した、きめ細かい情報提供を行い、漢方を学びたい医師へのニーズに応えるために、各営業拠点による企画を開催しております。

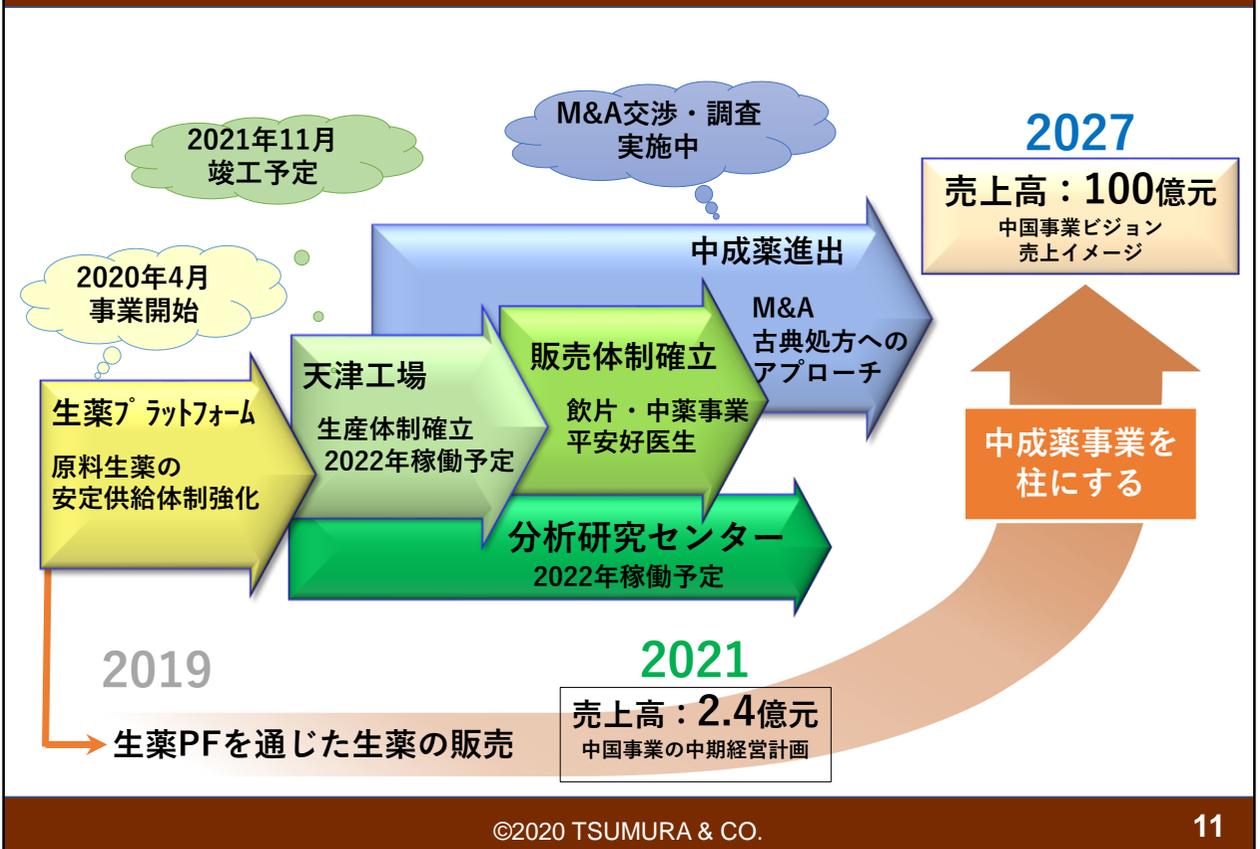
開催例として、支店管轄の営業所における、各地域に密着した講師による漢方講義 全8回シリーズを企画し、1回目は274名、2回目は330名に視聴していただきました。

営業活動につきましては、従来の訪問型活動が十分に実施できない状況が続くなか、Webを活用したセミナーを大幅に増やしており、一定の効果を認めています。

また、MRによる施策を積極的に展開し、各エリア、医療圏の状況に合わせた新たな活動も開始しております。

今後も、医療関係者からの要請に応じ、オンラインによる活動とこれまでの訪問型活動を使い分けるハイブリッド型の活動に加え、e-プロモーションをさらに充実させ、積極的かつ効果的な情報提供活動を推進してまいります。

# 中国事業基盤構築の枠組み（進捗状況）



## ■ 中国事業基盤構築の枠組み（進捗状況）

11ページは、中国事業基盤構築の進捗状況です。

津村盛実・天津工場の建設は、COVID-19の影響による遅れをできる限り取り戻し、2022年の稼働を目指して進めており、2021年11月の竣工を予定しております。

中成薬事業基盤と販売体制の構築のためのM&A候補先については、1社に絞り込み、現在、交渉・調査を実施しております。

分析研究センターは、2022年稼働予定です。

# 2020年度業績予想～修正なし

(百万円)

	2019年度実績	2020年度予想	前期比	
			金額	伸長率
売上高	123,248	132,000	8,751	7.1%
営業利益 (営業利益率)	18,876 (15.3%)	17,000 (12.9%)	△1,876	△9.9%
経常利益	19,649	17,900	△1,749	△8.9%
親会社株主に帰属する 当期純利益	13,765	13,000	△765	△5.6%

	2019年度実績	2020年度予想
配当金 (1株当たり)	64円	64円
EPS	179.96円	169.92円
ROE	6.8%	6.2%

COVID-19の収束時期を正確に見通すことが困難なため、上記業績予想にはCOVID-19による影響を反映しておりません。仮に感染拡大が、徐々に収束に向かった場合と継続した場合を想定し、売上高へのマイナス影響を2～4%と予測しますが、長期化した場合等、状況に変化が生じた際には、適時・適切な開示を実施いたします。

©2020 TSUMURA & CO.

12

## ■ 2020年度業績予想

12ページは、2020年度業績予想です。

年間配当は、1株当たり64円を予想しております。

EPSは169.92円、ROEは6.2%の予想でございます。

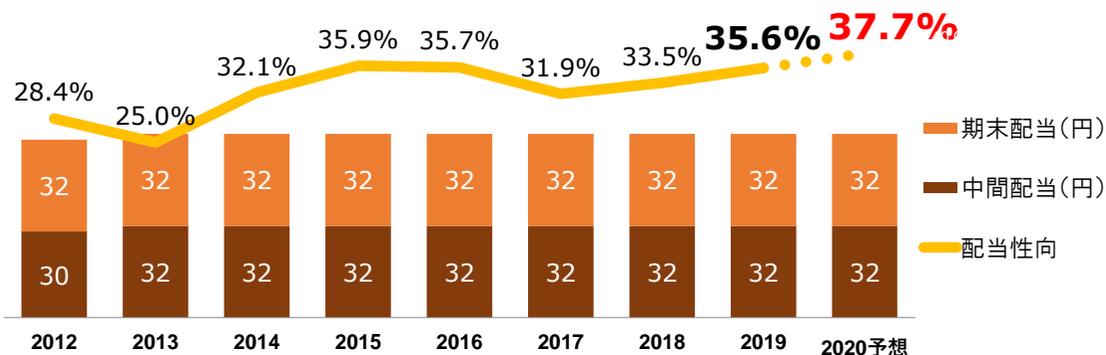
なお、現時点でCOVID-19の収束時期を正確に見通すことが困難なため、上記業績予想にはCOVID-19の影響を反映しておりません。

仮に感染拡大が、徐々に収束に向かった場合と継続した場合を想定し、売上高へのマイナス影響を2～4%と予測しますが、長期化した場合等、状況に変化が発生した際には、適時・適切な開示を実施いたします。

# 株主還元

## 方針

- “漢方”事業の持続的な拡大と中国事業の成長投資および基盤構築を通じて、企業価値の向上を図る
- 中長期の利益水準やキャッシュ・フローの状況等を勘案し、安定配当を実施する



(注) 2020年度期末配当金・配当性向(予想)は、第85回定時株主総会による配当議案決議が前提の予想数値を記載

©2020 TSUMURA & CO.

13

## ■株主還元

13ページは、株主還元です。

中間配当は、32円とさせていただき、期末配当の32円と合わせて、年間64円の配当を予想しております。

2020年度の配当性向は、先ほどの業績予想ベースで、37.7%を予想しております。

引き続き、漢方事業の持続的な拡大と、中国事業の成長投資および基盤構築を通じて、企業価値の向上を図るとともに、

中長期の利益水準やキャッシュ・フローの状況等を勘案し、安定的かつ継続的な配当を目指し、経営に邁進してまいります。

## 本資料に関するお問い合わせ先

### コーポレート・コミュニケーション室

広報グループ

TEL : 03-6361-7100

IR推進グループ

TEL : 03-6361-7101

#### 見通しに関する注意事項

- 本発表において提供される資料ならびに情報は、いわゆる「見通し情報」を含みます。これら見通しを実現できるかどうかは様々なリスクや不確実性などに左右されます。従って、実際の業績はこれらの見通しと大きく異なる結果となりうることをご承知おきください。
- 日本ならびにその他各国政府による医療保険制度や薬価等の医療行政に関する規制が変更された場合や、金利・為替の変動により、業績や財政状態に影響を受ける可能性があります。
- 現在発売している主要製品が、万が一製品の欠陥、予期せぬ副作用などの要因により、販売中止となったり、売上が大幅に減少した場合、業績や財政状態に大きな影響を及ぼします。